

令和5年度千葉県造血幹細胞移植推進協議会における開催結果概要

1 日時

令和6年2月7日（水）午後6時から午後7時15分まで

2 場所

Web開催（Zoom）

3 出席委員

堺田委員、成田委員、脇田委員、梅田委員、鎗田委員、岸本委員、布施委員

4 議事概要

■ 報告事項

造血幹細胞移植推進事業実施状況及び現状について

<質疑応答>

（梅田委員）

千葉骨髓バンク推進連絡会では、ドナー登録の他、ドナー休暇制度の普及啓発に力を入れている。ドナー休暇制度は企業に働きかけが必要だが、来年度も力を入れていくので、ご支援願いたい。

また、ドナー登録説明員が高齢化しており、新しい説明員に入ってもらい活動を活発化していく必要がある。県のドナー登録説明員養成講座について、来年度も引き続き開催してほしい。

（堺田委員）

献血並行型骨髓ドナー登録会の実施状況等を見ると、令和5年度は12月末時点の合計であるため少ないが、開催箇所数が増えれば、登録者数も伸びる印象を持っている。

コロナ禍を抜け、また最近、新型コロナウイルスが再流行しているが、その辺りも様子を見つつ登録者を伸ばせるよう期待する。感触はどうか。

（梅田委員）

今年度、およそ4分の1残すところだが、数字的にはコロナ前にほぼ戻りつつあると見ている。

また、献血に来た方に対するドナー登録の声掛けを赤十字血液センターにお願いしており、数字に表れていると思料する。赤十字血液センターの担当者が変わっても、引き継いで声掛けを実施してもらえると登録者数が更に復活してくるように思う。

■ 協議事項

令和6年度造血幹細胞移植推進事業実施計画（案）について

<質疑応答>

（梅田委員）

若年層のドナー登録が必要であるため、学生等への啓発を引き続きお願いしたい。

新たなドナー登録会場の開拓として、大学、ショッピングセンター、企業、イベント等、若年層が登録できるような会場を中心にお願いしたい。

（塚田委員）

データにも出ているが、千葉県は10～20代の登録者数が5割に届いていないところが課題。若い方々に、繰り返し、必要性を説明する機会があると良い。

ドナー支援事業の補助対象者の拡大に関しては、医療現場の立場から見ても、確認検査、最終同意後の検査、自己血の採取等、時間を割いてもらっても患者都合等で提供に至らない場合もあるので、そういったドナーにも補助を拡大できるよう進めていただきたい。